

(仮称)はこだて観光圏整備計画(案)に対するパブリックコメント手続の実施結果について

案 件 名	「(仮称)はこだて観光圏整備計画」(案)	
募 集 期 間	平成22年1月15日(金)～1月28日(木) (国で募集する平成22年度の観光圏認定に申請するため、募集期間を30日未満といたしました。)	
担 当 課	観光コンベンション部観光振興課	
意見提出者数	個人 7人 法人等 1団体 (内訳) 郵送2件 ファクシミリ2件 電子メール4件	
項目別意見の内訳		
	意見内容	意見数
	観光圏の区域について	1
	観光圏整備事業について	22
	観光圏整備計画期間等	1
	その他	18
合 計	42	

(仮称)はこだて観光圏整備計画(案)に対する意見

	意見の概要	市の考え方
1	<p>観光圏の区域について</p> <p>今年是新幹線の新青森開通の年です。そこで、観光圏は、青・函が連携して、お互いがお互いを高めあい、新幹線開通により青・函相乗効果を生み出す、そのような観光圏を作るべきと考えます。</p>	<p>青森市では、すでに平成21年度におきまして、近隣の7市町とともに「新たな青森の旅・十和田湖広域観光圏」を整備し、認定を受けておりますことから、青森市との観光圏の形成は、かなわなかったところであります。しかしながら、本年12月に予定されております東北新幹線新青森開業は、本市のみならず道南地域における観光振興を図るうえで、大きな契機となるものであり、これまで以上に青森市との連携を深めることで、本圏域に多くの観光客を誘導することにつながるものと認識しております。今後、各々の観光圏が互いに連携し、それぞれの特色を活かしながら広域的なつながりを築いてまいりたいと考えております。</p>
2	<p>観光圏整備事業について</p> <p>(1)観光コンテンツの充実に関する事業</p> <p>観光をのばすにはポイント制しかないと思います。この道南にあるお店や宿泊施設、また交通手段などを多く登録し道南で旅行し泊まり食べてお土産を買うこの地域で消費すればするほどポイント制で還元する。対象を観光客だけでなくこの地域に住む市民にも拡大し相乗効果を狙う。具体的な何パーセント還元かは議論し決定する。</p>	<p>左記に記載するご意見につきましては、整備事業の具体的な取組みに関するものでありますので、今後策定を予定しております「観光圏整備実施計画」におきまして、事業の実効性、事業の実施主体や効果等を検討のうえ、反映に努めてまいりたいと考えております。</p>
3	<p>市場やデパートで、道南各地域の直売や物産展を行った場合、ある一定の金額を購入すれば、その地域までの往復割引と、体験チケットが入手できる、といった企画は如何でしょうか。</p> <p>夜景、夏競馬、野外劇、クリスマスファンタジーといった、他地域では真似できないイベント等を狙って、函館で道南の食をアピールするの一案と思います。</p>	

4	<p>人々の関心が「健康」にある様に、はこだて観光圏の「食」についても、「健康」に良い食べ方を提供できれば、違った魅力をアピールできるはずで、旅の大きな楽しみの一つに、現地の人との交流が有ります。地域の歴史や文化を知る人たちがガイドを務める様な企画を実現できればリピーターも増えると思います。</p>	
5	<p>函館や江差に住んでいる人や、出身者でお盆などに帰省する際に真っ先に食べるものこそ、観光客の方々に提供するべき。こういった食べ物が真に喜ばれ、集客につながる食べ物であり、ピンポイントで観光宣伝の際には重点化すべきだとかんがえる。</p>	
6	<p>自殺者3万人の現状にある我が国においては、人との交流が求められている。グリーンツーリズムに近い発想であるが、例えば、単に、朝旅館等で提供されるイカ刺しを食べるのではなく、夜中から漁船に乗り込み、漁師さんたちと一緒にイカ漁を行い、自分たちで獲ったイカを料理して仲間と共に味わう取り組みが出来ないだろうか。地元の漁師さんとも交流が出来るし、危険な？海の上でひと時を過ごした仲間として、知らない旅行者同士であっても、心の交流が可能となると考える。</p>	
7	<p>世界遺産認定の動きは縄文群だけでなく、五稜郭も動きがあると聞いている。これも視野に入れておくべきではないか。</p>	
8	<p>冬の観光客が伸び悩んでいる。北海道の雪の楽しさをもっと作り出して、呼びかけるべきではないか。七飯スキー場などはもっと人が来てほしいはず。新潟県の寺泊の魚市場は雪の多い冬でも多くの人で賑わっている。観光客だけでなく地元の人たちからも受け入れられる価格と新鮮さが人気の秘密。</p>	
9	<p>道南12館ツアー 青森十三港などとタイアップして、安東氏から始まる十二館をめぐる旅。それぞれの館の説明は各市町村の学芸員にお願いする。歴史好きな人たちが増えているので呼びかけ方によっては、一、二泊程度で年2回程度の企画が可能であろう。これ以外に発掘の進んだ勝山館なども加える。当然、郷土食、芸能などを組み合わせる。</p>	
10	<p>円空、木喰仏ツアー 道南に数多く点在する円空仏と木喰仏、現在でも地元の人たちの信仰の対象となっているものもあり、管理はきちんとなされている。道南産のそば、その他食材を使った料理を食べながら、仏様をたどる旅も魅力がある。</p>	
11	<p>縄文遺跡ツアー 本物の国宝中空土偶が見れることをメインポイントにしたい。せっかくの国宝指定、地元振興に使うからこそ、その価値が生きる。南茅部付近を中心に道南一帯には旧石器から縄文にかけての遺跡が数多くある。各市町村に点在して保管されている出土物を詳しい説明を聞きながら、往時のロマンに夢を馳せる旅。世界遺産登録の下地作りの一環として是非実施したい。</p>	
12	<p>駒ヶ岳、恵山、海底火山、温泉ツアー 函館や道南にたくさんの温泉が存在し、函館市内の銭湯はほとんどが温泉であることを知っている人は意外に少ない。歴史ある湯の川でさえ、登別温泉には知名度で差をつけられているようである。温泉の街函館を知ってもらうためには、さらなる地道なPR活動が必要であろう。温泉の熱源である火山巡り、温泉に入るツアー。そして、可能かどうかは専門家の判断によるが、戸井沖の海底火山のあたりを船で一周、超音波探傷などで形を実感するのもおもしろい。</p>	

13	<p>野外劇関連歴史ツアー</p> <p>野外劇は函館の歴史劇。劇中に出てくる史跡、場所などをめぐり、その後で観劇する。夜は土方、榎本の食べたであろう食事で仕時をしのび、一本木、高龍寺、宝来町、山ノ上町、西部地区、二股、鷲ノ木、亀田八幡、碧血碑、五稜郭、立待岬、弁天台場跡、青柳町(啄木)、江差など。</p>	
14	<p>函館周辺に目につくのは蕎麦屋である。それだけ地元で人気が高いので、これだけの蕎麦屋が営業を続けていけるのだろう。そば村を作って、いろいろな種類のそばを食べてもらうというのはどうだろう。</p>	
15	<p>函館特産品市場の創設。海産物はいくつかあるが、農産物は規模の大きなものはない。ニセコの道の駅はいくつかの農家が集まって、人気である。函館、その近郊にはおいしい農産物が沢山ある。これらを観光客に買ってもらうことを考えたい。新幹線が出来れば、安価に翌日配達も可能になるのではないか。</p>	
16	<p>厚沢部町「喜多里」は焼酎メーカーとして知られるが、ワイン製造も視野に入っていると聞く。また、黄金千貫の栽培、ジャガイモ焼酎などの製造。蒸留廃熱を利用したサラダ菜の栽培など積極的な事業展開をしている。江差観光ルートには是非加えたい。</p>	
17	<p>「食の開拓団制度」(国内版ワーキングホリデー型観光)</p> <p>この制度は本州の優れた調理技術を持つ人物を道南市町村に招き、滞在期間中に宿泊先の地域の食材を活かした創作料理を一品制作する、または助言、提案、実演をしていただくものです。対象者は本州の各地で有名料理店を営む料理人、またはその推薦者とし、期間は7日間～1ヶ月間、人数は道南市町村に一名づつ赴任していただくのが望ましいですが現実的には5名程度(～18名)で始まるかもしれません。順調に運営が行われるならば四季に応じて年間4回の食の開拓団を招くようにすれば、あらゆる地域、あらゆる食材の可能性を追求できると思います。</p>	
18	<p>(2)交通・移動の利便性向上に関する事業</p> <p>現存する鉄道や道路を最大限に活かし、個別輸送ではなく公共交通による大量輸送を軸に考えるべきです。資料にありました「みなみ北海道バス」の導入は大賛成です。利便性を高めるため、圏域内ローカル線は、市電サイズの小型列車にして、本数(便数)を多くするのがいいと考えます。新幹線開通後に三セクになる現JR路線を維持するにも有効な手段ではないでしょうか。京福電鉄から替わった福井県のえちぜん鉄道のように、全便にアテンダントの女性を配置するのも一案のように思います。</p> <p>観光拠点でのレンタサイクルも有効と考えます。レンタカーをすべてハイブリッドや電気自動車にすると、環境面でも内外にアピールできるかもしれません。</p> <p>交通手段の充実が観光地のイメージアップのみならず、増加している鉄道ファンの圏域への入込に必ず寄与するものと考えます。全国津々浦々を旅していて、人より車が多い地域ほど、魅力のない地域はありません。北海道以外の地域を参考にした交通インフラの整備を望みます。</p>	<p>観光客に快適で利便性の高い交通アクセスを確保することは、圏域への誘客を図るうえで重要な要素であり、かつ、環境への配慮は、今後の各種事業を展開するうえで、取り組んでいかなければならない項目の一つであるものと認識しておりますので、その実現に向け関係機関に要望してまいりたいと考えております。</p>
19	<p>(3)観光案内・観光情報の提供に関する事業</p> <p>連泊滞在やリピーターの方には、市内を拠点にはこたで観光圏を回るモデルコースを、旅行会社等にはオプションツアーを提案していく等、希望を聞いて色々なコースを提示してあげられる窓口が必要で、アドバイスができる、それも敷居が高くない物で考えられればと思う。観光コンシェルジュセンターも設立さ</p>	<p>各地域の観光案内所における観光メニューのコーディネート機能、案内機能の強化はもとより、各観光案内所間の連携を密にし、利用者の立場にたった対応に努めてまいります。</p>

	れ、はこだて観光圏として活用していく為にはどこからでもつながる体制が大事だと考える。	また、圏域内の観光関連情報を発信する「みなみ北海道観光情報サイト」の整備による情報の一元化や、観光コンシェルジュセンターのコーディネート機能を活かした複数地域の体験型観光メニューの提案など、観光客にとって利用しやすい体制を整えてまいりたいと考えております。
20	(4)その他 これらのテーマ(観光圏整備)にかかる費用と、得られる効果を概略の数字で示してほしい。	今後、事業を実際実施しようとする民間事業者を中心に策定する「観光圏整備実施計画」におきまして、個別事業の目標、実施体制および具体的な実施内容など詳細をつめるとともに、実施した事業の検証と修正を行い、効果的な事業推進に努めてまいります。
21	テーマ数は多いが、実施主体数には限りがある。当然複数のテーマを実施することになるが、マンパワー上の問題はないか。要員何人に対応するのでしょうか。費用対効果の観点から、選択と集中も大胆にやってほしいと思う。	
22	宿泊客が毎年5%ずつ増えることになっているが、設備もこれに対応しなければならぬ。設備投資を毎年続けることは個人企業には難しい。どのようなタイミングでどのくらいの投資が必要か盛り込む必要がある。宿泊以外にも、公衆トイレ、休憩所、駐車場など人数増へのインフラ整備はどうするのか。	圏域内の周遊観光を促進することで宿泊日数の増加を見込み、圏域内全体の宿泊者数の底上げを図ることとしておりますので、現有施設の利活用を基本に取り組んでまいりたいと考えております。
23	これらのテーマが選ばれた理由の明確化。 観光客が道南になにを求めているのか調査した結果に基づいているのだろうか。「食」を選んだ根拠を明確化することにより、このプロジェクトへのエネルギーがさらに高まるのではないか。	本テーマにつきましては、実務を通じて様々な観光ニーズを直にお受けしている圏域内18市町の民間団体や行政の総意によるものです。 また、「地域ブランド調査 2009」におきましても、本圏域の中核となります函館市が、全国で最も魅力的な市区町村に選ばれた要因として、地域資源評価で「食事がおいしい」、「買いたい土産や地域産品がある」という項目において1位となっていることから、本圏域に対して、多くの方が「食」への期待が高いことを示していることから、ブランド戦略のテーマを「食は“函館・北海道”に在り～今だけ、ここだけの旅三昧・食三昧～としたところ
24	計画期間について 完了時期は新幹線開通を意識しているため平成26年となっている。これでは遅すぎるのではないか。新幹線開通時にはすでに客を呼び込んでいないから。他所との競争に勝てるのだろうか。	農林水産省・国土交通省告示で制定された「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本方針」におきまして、観光圏整備計画の計画期間は、5年程度を原則とすると規定されていることから、平成22年度から平成26年度までの5年間としているところであります。 なお、新幹線開通によって見込まれる新たな観光需要に対応する事業につきましては、計画の早い年次に組み込むことで、期を逸することのないよう努めてまいります。

その他の意見

	意見の概要	市の考え方
25	観光都市ナンバーワンと言われる函館に60年住んで思うことは、市民、観光に関係する業者の意識の低さである。まさに夜景にあぐらをかいている状態。湯川温泉街の統一感のなさ、マナーの悪さ、朝市の値段の高い食事、売り物、管外業者のホテルの林立、行啓通りから五稜郭公園に通ずる間のなんの規制もない建物群。これら他の観光地から比べてかなり劣る。それでもナンバーワンになれるのだから不思議としか言いようがない。私は、観光評議委員を擁する機関を設立し、意見交換を活発化し真の観光地ナンバーワンを目指すべきであると思う。	広域滞在型観光地づくりを進める観光圏整備法に基づく、本整備計画策定においては、直接には合致しないご意見と判断いたしますが、今後の本圏域における観光振興を図るうえで貴重なご意見として、参考とさせていただきます。
26	函館は下海岸、南茅部を合併したが今のままでは観光面での何の特色もでない。旧函館の観光スポットを基点とし、戸井のまぐろ、恵山の山、つつじ、温泉、	

	<p>南茅部の昆布、定置網漁、白尻の遺跡。これらを線で結んだルートを考えて見てはどうか。</p> <p>もう一つの基幹産業である漁業の振興の意味からも戸井のまぐろは相場に左右されない水揚げ、大棒網発祥の地と言われる南茅部では漁の見学、水揚げされた魚を使った食事の提供、昆布の販売(これに供する建物は網を保管する大きな倉庫を網元は所有しているのでそこを活用出来るのではないか)、それに国宝に指定された中空土偶を含む遺跡のある白尻と続く。この先小一時間で大沼である。これから整備されれば、夜景を見て一泊の現在のスタイルを打破できる。また、新幹線開通時の受け皿になりうる。</p>
27	<p>市民教育の盛りこみが弱い。関連業者教育だけでなく大人から子供まで全市民が意識をそえる必要があるのではないかと、とくに、小学校からの教育が重要ではないか。</p>
28	<p>函館を訪れる人は観光客以外にもいる。</p> <p>学会、商談、検診・治療など、数多くあるはず。彼らも道南に金を落とす人たちであることに変わりはない。彼らへの戦略も組むべきではないか。</p>
29	<p>各町会などへの働きかけが盛られていない。</p> <p>市民教育だけでなく、市内清掃、花木管理には町会などの協力が不可欠。</p>
30	<p>ローブウェイ、五稜郭タワーの地元割引の実施</p> <p>ローブウェイ、五稜郭タワーは地元の人はずでに何回も利用している人がほとんど。その人たちが外部のお客様を案内する場合、付き合いで切符を買って乗ることもあるが、割り切れなさを感じている人も多い。気のおけない客の場合は、費用負担のことを考えて、自分は下で待っているケースもあると聞く。</p> <p>提案は、「函館検定合格者の観光客同伴はチケット不要」である。</p> <p>ややマンネリ化している函館検定の受験者を増やす動機にもなるし、市民の観光に対する関心を深めるきっかけにもなる。</p>
31	<p>ネットの効率的利用</p> <p>観光に関係する人たちのメールアドレスの保持と、サイトの立ち上げを指導、奨励する。今や、インターネットの時代、自らの宣伝もネットを経由して行うのが効率的でコストも安い。いまだに、電話やファクスでの連絡に固執している企業もあるが、情報提供、情報収集の効率化のために即刻改めるべき。これは行政の強い指導、支援が欠かせない。</p>
32	<p>競輪、競馬、カジノ</p> <p>競輪場が新設され、近々競馬場が竣工する。この二つを組み合わせ、集客を行う。最近函館をにぎわせた浅田次郎氏も何度も函館競馬場に足を運びリーダーとのこと。浅田氏に競馬必勝法を講演してもらおうものもおもしろいのではないかと。たとえば「家族同伴、格安ホテル価格、レンタカー込み」などにより、娯楽としての函館ギャンブルを再認識してもらおう絶好の機会と思う。</p> <p>競輪競馬さらにカジノというのでは、モラル上の問題もあり、地域での議論が必要であるが、亀井大臣主導の沖縄案に相乗りというのはどうであろうか。緑の島はカジノとして恰好の場所だけに検討くらいはしても良いのではないかと。</p>
33	<p>コンベンション誘致</p> <p>全世界に目を向ければ、コンベンション市場は膨大である。コンベンション誘致に向けて真剣なマーケティングをする必要がある。まず、最初になすべきことは、大沼国際会議場のフル活用。ついで、適当規模(マーケティングにより決める)の会議場の建設である。国内外の先行する都市とは競合することになるが、夏の涼しさ、周辺宿泊施設の充実、豊富な自然など採算のあうビジネス条件は揃っている。はこだて未来大を軸としてIT関連会議の可能性について調査してみてもいかがでしょうか。</p>

34	<p>医療関連</p> <p>函館の人口比病院数は全国平均を上回っている。このことは、高齢化社会の到来に向けて当地域のビジネスの可能性を示している。</p> <p>PET 検診ツアー</p> <p>夫婦で検診が望ましいが、バリエーションは多く、たとえばご主人が、PET 検診を行っている間に、奥さんは買い物や観光あるいはパークゴルフなど、五稜郭病院が核となるが、ビジネスとするためには、ホテル、レストラン、航空会社、JR、コンピューターソフト、ゴルフ場、レンタカーなど、複数業種との連携が必要である。</p> <p>中長期療養型施設(老人ホーム含む)</p> <p>市民も満足に入れる状態ではないので難しいかもしれないが、空気の良いところで長期療養が適正費用で行えれば市場性があるのではないかと、急性期治療を終えた患者が、療養型病床で病を癒して、故郷に帰る。この循環を作り出すことが出来れば病院経営もかなり明るいものになる。</p>
35	<p>海産物養殖</p> <p>ガゴメ昆布養殖オーナー制度</p> <p>エゾアワビの商品性向上</p> <p>熊石であわびの養殖が行われ、あわび祭りには多くの人が集まっている。これほど人気の高いエゾあわびであるが、形が小さいので、商品のインパクト性に欠ける面がある。エゾアワビについても内地産と種類が違うのではなく、環境条件により生育が遅いために小ぶりということであろうから、工夫により大きなものも可能ではないかと思う。魅力的な価格で大量に売ることが出来れば、多くのファンを獲得できるのではないかと、もちろん海洋深層水も十分にアピールする。</p> <p>北大水産学部で行っているイトウの養殖を商業ベースに乗せられないか、北斗市で養殖されているチョウザメの商品性の拡大</p> <p>エゾ馬糞ウニの養殖、くず昆布をえさに利用する。</p>
36	<p>朝市、自由市場の再活性化をはかる。朝市の一客向け売上のやり方に対しては、これまでも色々意見があった。浅田次郎氏の件は今後に向けて、ありがたい警鐘と前向きに受け止めるべきであろう。</p> <p>値段を下げる、試食を自由にやらせる、客への声かけのやり方を再検討する、年に何回かは地元顧客向けのイベントを実施する。地元が積極的に食材を買いに行く朝市および自由市場であってこそほんとうの観光名所といえるだろう。</p>
37	<p>七飯町は日本のりんご発祥の地といわれている。この事実を広く知らせるため、然るべき場所にりんご並木を作る。ちなみに、フルーツロードと呼ばれているところの両脇はどうだろうか。最近りんごの人気は今ひとつ、青森なども苦戦していると聞か、りんごの加工品なども含めて楽しく「場」をつくることにより、復活のきっかけとする。函館新道ができたことにより、七飯町に立ち寄り客が少なくなったといわれているが、さまざまな広告手段によりPRをおこなう。新道に大きな看板を立てることも必要。</p>
38	<p>外国人向けの施策。市内の説明看板は貧弱の一語、とくに外国人には不親切である。少なくとも、英、中、韓できれば台湾語、スペイン語、フランス語も入れて六ヶ国語くらいの音声サービスをすべきである。リピーター獲得には、多くの競争相手に対して、これらを圧倒的に凌がない限り不可能である。</p>
39	<p>修学旅行・研修旅行等で来訪する子供・若者達は将来の大切なリピーターとなり得る事をもっと認識しておいた方がよい。</p>
40	<p>朝市等を含め小売業等の方、タクシー等運輸関係の方達にもこれからリピーターが増え、それが観光業界を左右して行く時代だと再度ホスピタリティの気持</p>

	<p>ちを学んで行動に移して行ってもらいたい。批判の記事がでるようではダメ。</p>	
41	<p>宿泊施設も、特に湯の川の旅館スタイルの施設等は連泊を考えると宿食分離を取り入れる工夫も必要である。最近ではホテルでも温泉施設を有する所が増えているので、もっと危機感があってもらう。湯の川に泊まるけれども夜景を見ながらゆっくり食事を取れる。ライトアップされた西部地区を散策しながら好きな食事を取れても良いのではと1泊は中で違う日は外で考えられないか。</p>	
42	<p>市内ではパンフ類はあちこちで見かけるが、より詳しい地域の情報(イベント・展示会・見頃の場所等)や観光の事を専門に聞ける場所の表示・案内板がもっとあちこちにあっても良いのではと思う。案内所の増加は無理でもここに行けば聞けるという表示板は目立つように市内のポイントに多数設置してほしい。 市民一人一人がより受け入れるという姿勢を観光客の方に示していける街になってほしいと願う。</p>	
意見等を考慮した結果の修正案	意見による修正はありません。	
結果の配布場所	観光コンベンション部観光振興課(市役所本庁舎3階)	
お問い合わせ先	観光コンベンション部観光振興課 TEL 0138(21)3340 FAX 0138(21)3324	